

群 教 七	G10 - 01
	平28.261集
	道徳

自分の考えを確かにし、道徳的実践への 思いを持つことができる児童の育成

—行動の意味を問う発問を基に、
互いの考えを比較していく道徳の授業を通して—

特別研修員 吉田 宏美

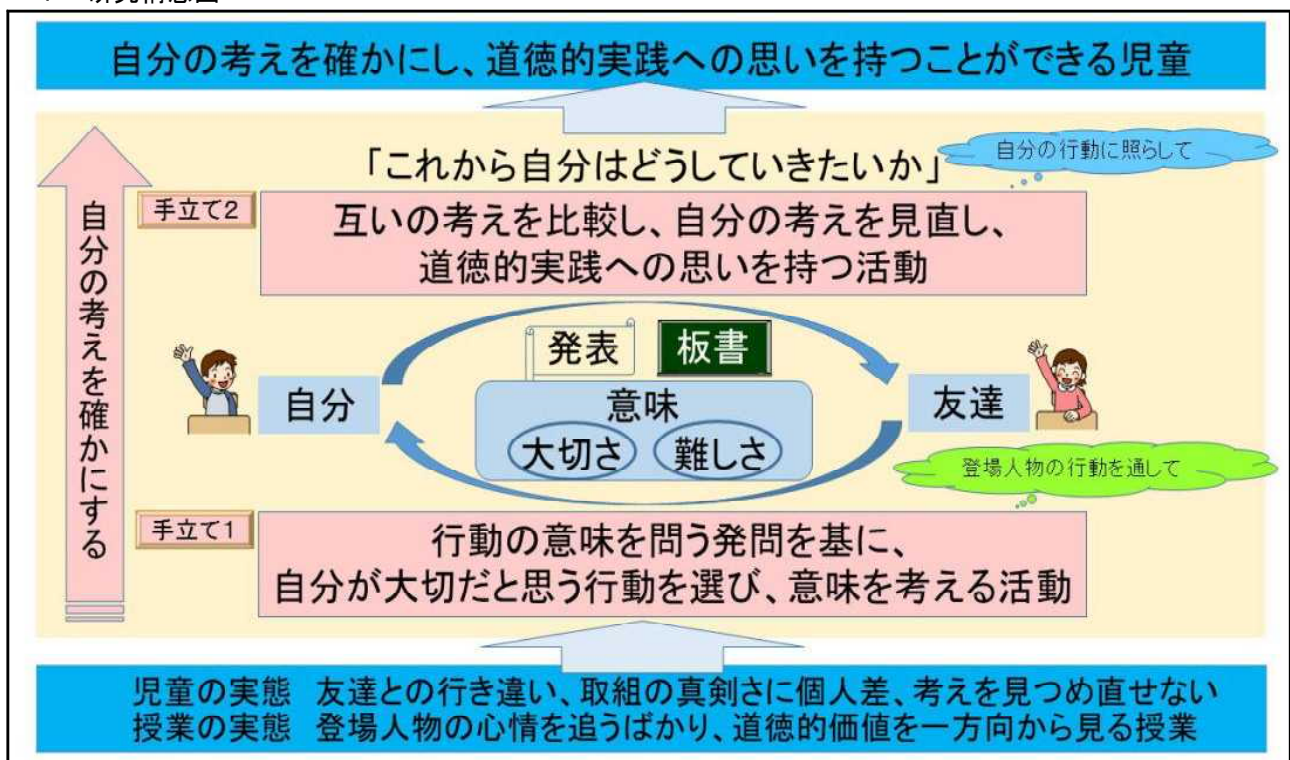
I 研究テーマ設定の理由

平成27年7月に改訂された小学校学習指導要領解説特別の教科道徳では、これからの課題や目標を見付けることができるよう工夫することなどが重視されている。また、平成28年度群馬県の学校教育の指針では、道徳の授業展開に、「道徳的価値について理解すること」「自分との関わりで道徳的価値を捉えること」「道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題を培うこと」を取り入れるように求められている。本校では、登場人物の気持ちを考えることができる児童が多い。しかし、日常生活では友達との行き違いが見られ、当番活動などの取組の真剣さに個人差がある。このことから、道徳的価値について理解することはできても、児童自身がどうしていききたいか、道徳的実践につなげていくことが難しいと言える。また、考えを書くことはできても、友達の考えを聞いて自分の考えを見つめ直していく様子があまり見られない。場面に沿って登場人物の心情を追うばかりで、道徳的価値を一方向から見る授業になっていることが一因と考えられる。

そこで、登場人物の行動の変化に着目し、行動の意味を問う発問を基に考えていくことで、自分にとって大切だと思う行動を見いだしていくことができる。そして、互いの考えを比較し、道徳的価値に対する自分の考えを確かにしていくことで、「自分はこれからどうしていききたいか」という道徳的実践への思いを持つことができると考えた。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

手立て1 行動の意味を問う発問を基に、自分が大切だと思う行動を選び、意味を考える活動

手立て1は、「登場人物の行動が変わっていったのはなぜか」というような行動の意味を問う発問を基に、登場人物の行動から自分が一番大切だと思う行動を選び、その意味を考える活動である。はじめに、登場人物の最初と最後の行動に着目できるようにする。次に、行動がどのように変わったかを確認し、いくつかの行動の中から、自分が一番大切だと思う行動を選ぶように促す。そして、大切だと思った理由や登場人物の気持ちについて、じっくり考えていく活動を設定する。

自分が一番大切だと思う行動を選ぶことは、自分ならどんな行動をするかを考えていくことにつながる。そして、自分の考えの根拠をはっきりさせ、自分にとって大切なことを見いだしていく。このように、自分が大切だと思う行動の意味を問う発問に絞り込んでいくことで、登場人物の行動を通して、自分にとって大切にしたい行動を考えていくことができる。その行動の意味を捉えることで、道徳的価値を自分との関わりで考えることにつながっていく。

手立て2 互いの考えを比較し、自分の考えを見直し、道徳的実践への思いを持つ活動

手立て2は、互いの考えを比較し、自分の考えを見直し、「これから自分はどのようにしていきたいか」という道徳的実践への思いを持つ活動である。はじめに、手立て1の結果、自分が一番大切だと思った行動とその意味を友達に伝えるようにする。そして互いの発表を聞き合い、考えをまとめた板書を見合うことを促す。次に、自分や友達の考えを比較していく中で、実践していくことの大切さや分かっている行動でできない難しさを見いだしていけるようにする。自分の考えを見直すことを促し、「これから自分はどのようにしていきたいか」を考えて書く活動を設定する。

互いの考えを伝え、聞き合ったり見合ったりすることで、自分と友達の共通点や相違点を見付けたり、見方を広げたりすることができる。これらの活動によって、道徳的価値への多様な考え方に気付くことができる。また、考えを比較し、道徳的実践の大切さや難しさに気付くように話し合いを進めていくことで、登場人物の行動を通して、自分の考えや行動を見直すことができる。このようにして、道徳的価値に対する自分の考えを確かにしていくことができ、道徳的実践への思いを持つことができるようになる。と考える。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- 自分が一番大切だと思う行動の意味を問う発問に絞り込んだことによって、自分が選んだ大切だと思う行動の意味をじっくり考え、話し合うことができた。登場人物の行動を通して、自分が大切にしたい行動を考えるきっかけになった。
- 互いの考えを聞き合ったり考えをまとめた板書を見合ったりすることで、自分の考えを見つめ直しながら発表したり書いたりする児童の様子が見られた。道徳的価値への自分の考えを確かにしていくことができた。
- 自分はどうか、友達はどうか、互いの考えを比較したことで、多面的・多角的に道徳的価値を捉えることができた。そして、自分の考えを見直すことで、自分にとって何が大切で、何が難しいかを見だし「これから自分はどのようにしていきたいか」を考えて書くことができた。今後の自分の道徳的実践への思いを持つことができた。

2 課題

- 自分が大切だと思う行動を選んでその意味を考える活動では、登場人物の気持ちだけを考えてしまう様子が見られた。今後、自分の行動に照らして考えられるような発問や場をさらに工夫していくことで、より強く自分のこととして捉えることができ、今までの自分の行動と道徳的価値を結び付けていくことにつながると考える。
- 日常の自分の行動に対する課題意識を持つことができるように、問題解決的な学習を意識して授業構成を工夫していくことで、道徳的実践への思いをより確かにしていくことができると考える。

実践例

- 1 主題名 分かり合える友達 内容項目 2－(3) (第4学年・2学期)
資料名 「貝がら」文溪堂

2 主題及び本時について

本主題「分かり合える友達」では、友達と互いの気持ちを分かり合い、よりよい関係を築こうとする態度を育てたい。児童は、友達と楽しく遊ぶことはできるが、特定の友達といることが多いこと、意思の行き違いが繰り返されていること、当番や班活動では人任せにしてしまい、協力するのが難しいことが課題である。楽しい時間を共有するだけでなく、協力して活動するときや困ったときなどにも友達の気持ちを理解し、助け合うことができるのが本当の友達だと言える。また、互いのよさに気付かせる機会をつくり、理解し合い、友達関係を広げ、深めていくことも必要である。

本時で扱う資料では、主人公のぼくが、最初、口を利かなかった中山君に対して、最後には「今度こそ仲良しになれる」と気持ちに変化していく。この変化を基に、「ぼくの行動が変わっていったのはなぜでしょうか」と発問し、行動の意味を問う。自分が一番大切だと思う行動を選び、大切だと思った理由や主人公の気持ちを考えることで、友達になるためには、相手のよさに気付くこと、会話すること、気持ちが分かることなど、様々な関わり合いが必要であることに気付くだろう。そして、自分は友達とどのように関係を築いていきたいか考えることで、友達と理解し合い、助け合い、よりよい関係を築こうとする児童を育てたい。

主人公の行動の意味を問い、理由や気持ちを考えて、互いの考えを比較していくようにすることで、自分の考えを確かにし、友達とよい関係を築くための道徳的实践への思いを持つことができると考えた。

3 本時及び具体化した手立てについて

手立て1 行動の意味を問う発問を基に、自分が大切だと思う行動を選び、意味を考える活動

「ぼくの行動が変わっていったのはなぜでしょうか」という主人公の行動の意味を問う発問を基に、自分が一番大切だと思う行動を選び、大切だと思った理由や主人公の気持ちを考えられるようにする。

手立て2 互いの考えを比較し、自分の考えを見直し、道徳的实践への思いを持つ活動

互いの考えを発表して聞き合ったり、考えをまとめた板書を見合ったりして比較し、自分の考えを見直し、友達としてよりよい関係を築いていくために何が大事か道徳的实践への思いを持てるようにする。

場面絵

場面絵

手立て1

①「ぼくの行動が変わっていったのはなぜでしょうか」という主人公の行動の意味を問う発問をする。

②主人公が変化した四つの行動を見付け、自分が一番大切だと思う行動を選ぶようにする。そして、大切だと思った理由や主人公の気持ちを考えて、ワークシートにまとめさせる。

手立て2

③理由や気持ちを発表して聞き合い、板書を見合っていくことで、自分や友達の考えを比較していくようにする。そして見方を広げながら、自分にとって、大切なことや難しいことを見いだしていけるようにする。

④授業で考えたことや最初の思いを見直し、「友達として、よい関係をつくっていくためにこれから自分はどうしていきたいか」をワークシートにまとめて発表させる。そして、道徳的实践への思いを持てるようにする。

4 授業の実際

<資料を読んで、ぼくと中山君の行動の変化を確認>

最初のぼくと中山君の様子について確認した。また、自分だったらどう思うかについても聞いた。

T:「初めのぼくと中山君の関係は。」 S:「仲良くなかった。」 S:「話しかけたのに何もしゃべらない。」
T:「自分だったらどう思うか。」 S:「いやな感じ。」

最後のぼくと中山君の様子について確認することで、行動の変化を認識できるようにした。

T:「貝がらをながめているときのぼくの気持ちは。」 S:「うれしい。」
T:「何がうれしいのか。」 S:「わざわざ家に来てくれた。」
T:「その時どう思ったか。」 S:「今度こそ仲良しになれると思った。」 S:「ぼくも中山君も変わった。」
行動はどんな時にどう変わったのか、教師と児童のやりとりの中から引き出した。

T:「どうして変わったのか。」 S:「図工の時にほめた。」 S:「そしたら答えた。」 S:「でもまた黙った。」
T:「そのままの関係か。」 S:「病気の時、見舞いに来てくれた。」

最初と最後の行動を明確にして、変わっていった四つの行動に着目させ、比較できるようにした。

<手立て1 行動の意味を問う発問を基に、自分が大切だと思う行動を選び、意味を考える活動>

「ぼくの行動が変わっていったのはなぜでしょうか」という主人公の行動の意味を問う発問をした。児童は、自分が一番大切だと思う行動を選び、その行動を大切だと思った理由やその時の主人公の気持ちをワークシートに書いた。以下は、四つの行動ごとの児童のワークシートの記述である。

【①「ぼくが中山君に話しかけて、中山君が口を利いてくれた」行動（8人）】

「ぼくがほめたから、中山君も話しかけた。少し仲良くなって、ぼくの気持ちも分かってくれた。」
「ぼくは、中山君がやっと答えてくれてうれしいと思った。」
「話しかけて、中山君が口を利いてくれた。本当はやさしい気持ちがあるから。」

【②「ぼくは、中山君が黙ってしまったことに気付いた」行動（7人）】

「中山君は自分の言葉づかいが変だからあまりしゃべらなかつた。ほめてもらって、少し話そうと思ったのに笑われてしまって、また話すのが嫌になった。もっと話を聞きたかったのに。」
「やっと返事をしてくれたのに、聞きなれない言葉づかいだったので、あまり話さないのはそのせいなのかと、やっとその時に気が付いた。」

【③「ぼくのところに、中山君が見舞いに来てくれた」行動（8人）】

「ぼくのことを心配してくれた。うれしい。」「仲良しになれるかも。」「少しでも仲良くなりたかった。」

【④「ぼくに中山君が貝がらをくれて、それをながめた」行動（12人）】

「あまりしゃべらなかつた中山君が貝がらをくれたことをうれしく思った。」「中山君はやさしい。」
「貝がらももらって、元気が出た。」「ぼくにきれいな貝がらを見せたかったという気持ちが分かった。」
「あの時、中山君が言っていた貝がらだと思った。起きていれば、中山君とたくさん話せたのに。」
「中山君は本当は友達と違って考えているんじゃないか。」「ぼくのことを分かってくれたのかと思った。」

発問に対して、四つの行動から自分が一番大切だと思う行動を選ぶことで、全員が行動の意味を考えることができた。また、自分なりの視点で捉え、じっくりと考えてワークシートに書く姿が見られた。

<手立て2 互いの考えを比較し、自分の考えを見直し、道徳的実践への思いを持つ活動>

ワークシートの記述を基に、以下のように、大切だと思う理由や主人公の気持ちについて発表し合った。

【大切だと思う理由や主人公の気持ちを問う発問】	【児童の思いや考え】
T:「ぼくが中山君に話しかけたことは。」	S1:「中山君のことが分かってうれしいと思った。」
T:「話しかけたのが大切だと思ったのはなぜ。」	S2:「ほめたから大切だと思った。」
T:「みんなはどう。ほめたことはあるかな。」	S3:「ある。話すきっかけになると思うから大切。」
T:「中山君がまた黙ってしまった時は。」	S4:「中山君は笑われたくない。恥ずかしい気持ち。」
T:「自分だったら、笑われたら話したいかな。」	S5:「笑われたくない。話さない理由に気付いた。」
T:「ぼくのところに見舞いに来てくれた時は。」	S6:「自分のことを心配してくれたらうれしいから。」
T:「ぼくに貝がらをくれたことは。」	S7:「今度会ったら仲良くなれそうだった。」
T:「貝がらをながめて、何を考えたかな。」	S8:「中山君は友達だと思って考えているんだ。」

以上のように、互いの考えを聞き合ったり、考えをまとめた板書を見合ったりして比較し、見直した。その後、自分の道徳的実践への思いを持てるようにするために、資料と自分をつなぐ発問をした。インタビュー形式で児童の声を聞いていき、ほとんどの児童が大切だと思うことを答えられた。(図1)

T : 「この二人、友達に近付いてきたかな。」
 S9 : 「今度こそ仲良くなれそう。あまり話さなかったからうれしい。」
 S10 : 「分からない。言葉は変わらないし、またしゃべらなくなっちゃったらどうしよう。」
 S11 : 「でも、友達になりたい気持ちはあると思うよ。」
 T : 「いいなと思える友達とはどんな友達ですか。」
 S12 : 「助け合えること。」 S13 : 「何でも言い合える。」 S14 : 「やさしい。」



図1インタビュー形式で聞く

ぼくと中山君の関係が仲の良い友達に近付いていったと思う児童が多い一方、まだ分からないと答えた児童がいた。友達になる難しさについても考えられたのではないかと思われる。このように、友達になるために大切だと思うこと、難しいことについても、話し合いの中で考えることができた。

授業で考えたことや最初の思いを板書を参考にしながら見直し、児童は「友達として、よい関係をつくっていくためにこれから自分はどうしていきたいか」をワークシートに書いた。以下は、ワークシートの記述からキーワードになる言葉ごとに結果を示す。

「自分から声をかける」18人
 「助け合う」12人 「やさしくする」6人
 「何でも話す、聞く」5人 「心配する」4人
 「ほめる」「困っていたら助ける、教える」「悲しませない、傷つけない」「一緒に遊ぶ」各3人
 「気持ちを分かる」「相手を大切にする」
 「違うことを笑わない」各2人
 「相手を信じる」「ありがとうと言いつつ」
 「人任せにしない」「よい言葉をつかう」各1人

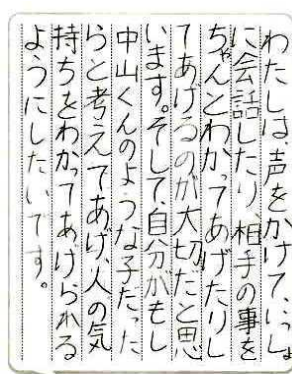


図2児童のワークシート

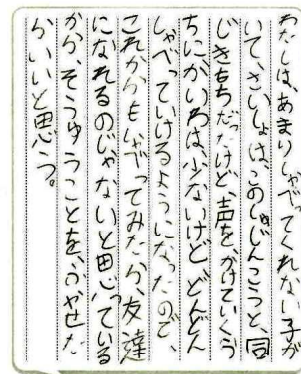


図3児童のワークシート

ほぼ全員の児童が、これから友達とどういう関係を築いていきたいか、今後の自分の具体的な行動や思いを書くことができた。児童のワークシートからは、もし自分が登場人物のような立場だったらと考え、ねらいとする道徳的価値についての記述が見られた(図2)。また、別の児童の記述からは、主人公の行動を考えた結果から、今までの自分の体験と結び付けて考える姿が見られた(図3)。このように、自分の考えを見直ししながら、道徳的実践への思いを持つことができた。

5 考察

発問を絞り込み、四つの行動から自分が一番大切だと思う行動を選ぶようにしたことで、全員が自分の立場を明確にして考えることができた。大切だと思う行動を選択でき、根拠をはっきりさせたことは、主人公の行動を通して、自分の行動をイメージすることにつながったのではないかと考える。

発表を聞き合いながら他の児童にも意見を求めたり、板書を見合って自分の考えを見つめ直すように促したりしたことで、自分や友達の考えを聞き合い、見方を広げながら自分の考えを確かめていくことができた。その結果、「これから自分はどうしたいか」という、日常生活で実践していきたいことや、自分が大切にしたい思いを書くことができていた。このことから、多面的・多角的に道徳的価値を捉え、これからの自分の行動を考え、道徳的実践への思いを持つことができたと考えられる。

「これから自分はどうしていきたいか」について考える場を設けたことで、今までの自分の体験と結び付けて考える児童が見られてきた。今後は、自分の行動に照らして考えられるような発問をさらに工夫することで、登場人物の行動だけでなく、今までの自分の行動や考え方と重ねて捉えることにつながっていく。そうすることで、自分の行動と道徳的価値を結び付けて深く捉えていくことができ、道徳的実践への思いをより確かにしていくことができると考える。

6 資料

行動の意味を問う発問を基に、いくつかの考えや行動から自分に近い考えや、一番大切だと思うことを選び、自分の立場や考えの根拠をはっきりさせ、意味を見いだしていった授業の例を板書で示す。

やり遂げる心 1- (2)
「きっとできる」
 文部科学省

主人公の行動に対して、二つの考えのどちらかを選び、根拠をはっきりさせて考え、意味を見いだしていく。

心を一つに 2- (3)
「同じ仲間だから」
 文部科学省

登場人物三人の行動の変化から気になる人物の行動を選び、その理由や気持ちを考え、行動の意味を見いだしていく。

本当の思いやりとは
2- (2) 「本当の思いやり」
 光村図書

主人公の行動の変化から自分が気になる行動を選び、その理由や気持ちを考え、行動の意味を見いだしていく。

家族の大切さ 4- (3)
「ブラッドレーのせい求書」
 文部科学省

主人公の行動の変化から自分が気になった結果を選び、その理由や気持ちを考え、行動の意味を見いだしていく。